

明日を拓く経営

東海で頑張る中小企業

藤原工業 公共工事の受注拡大

空調や給排水など設備工事を手掛ける藤原工業(本社四日市市塩浜本町3の45、藤原和彦社長、電話059・345・3151)は、自治体などが発注する公共工事の受注拡大を図っている。売上高に占める公共工事の比率を、現在の3割から将来的に7割まで引き上げたい方針。安定した工事量を確保し持続的成長を目指す。

(四日市市・山田駿太)

同社は1946年の創業。得意先は大手や中小のゼネラリズムは水道工事業だった。現コ(総合建設会社)や市町在は、主に建物の空調設備や給排水設備、換気設備、スプリンクラー設備などの新設・メンテナンス工事を行っている。



藤原和彦社長

創業時は主に公共工事を手掛けてきたが、現在は民間工事が中心で、売上高に占める公共工事の比率は3割程度。これを7割まで引き上げ安定

売上高の7割へ 技術力をアピール



空調などの設備工事を手掛けている



四日市市塩浜本町の本社社屋

した工事量を確保したい考え。

受注を拡大するのは、国における技術力。これまで、高

出先機関や三重県、県下の市い密閉度が求められる病院の町村などが発注する公共工医療ガス(酸素など)の配管事。工事の種類は、建物の空や、警察署で高硬度の便器の調設備や給排水設備の新設な設置工事などを施工した実績がある。

同社の強みは、設備工事に 同社は今後、自治体に対し、就労環境改善なども求めていくこととしている。自治体が発注する工事での受注実績を重ね、要望活動なども展開していく。地元企業が参加しやすい工事発注方式の採用なども訴えている。

藤原社長は「三重県の設備工事業社の健全な発展に寄与できれば」と話している。